

ろうどうけいざい 通信

2007 年 12月号(5)

発行:川村雅則 研究室

masanori@econ.hokkai-s-u.ac.jp

新潟で、非正規雇用を めぐる問題について考える

今年も行ってきました、インターゼミナール大会。今年の会場校となったのは新潟大学。新潟といえばお酒！！なんていう連想はさておき、今年もインゼミでよい経験をしてきました。私達が今回結成した分科会のテーマは、「わが国非正規雇用の実態と政策課題」。何を討論するのかということ、次のとおり。すなわち、わが国は、規制緩和によって、派遣労働者など多様な雇用形態・働き方が生まれたとされている。しかしながら、彼らの雇用・労働の実態をみると、賃金や社会保障などの面で不利な状況にある。雇用も、不安定であるという指摘がある。実態は果たしてどうなのか。また、必要な対策とはいかなるものかを中心に議論を行う（趣意書より）というものです。

さて、今回の分科会は、私達のゼミと、富山大学の坂先生のゼミならびに星野先生のゼミ（以下、坂ゼミ、星野ゼミ）という、三つ巴で結成させていただきました。また、オブザーバーとして参加されていた両先生にも参加・発言等をお願いし、議論を活発なものにさせていただきました（感謝）。ちなみに私は、ホントは自分のゼミの分科会に参加するのはよくないのですが、人手が足りない！ということで、あくまでも中立（？）の立場で助言講師として参加しました。川村ゼミでは、このインゼミ大会の参加を、2年間の勉強の総決算・総仕上げの場と位置づけています。正直、まだまだ準備不足であったことは否めません。今後の課題（ゼミⅢを忘れずに）も視野にいれ、当日の状況を報告したいと思います。

新潟大学 到着！



新潟大学にて

新潟入りしたのは12月22日。実際の討論は23日でした。インゼミ自体はたった2日間です。このインゼミまでの期間において、わがゼミでは、様々な取り組みを重ねてきました。夏のブロゼミ大会への参加、そしてタクシー運転者調査とハローワーク求職者調査の実施。全てはこの日のためにあった、、、、といえばやや大袈裟ですが、そんな感じで私達は作業

を進めてきました。

論文の構成

私達が分科会に提出した今回の論文の構成は、次のとおりです（多少手をいれています）。少しくどくなりますが、良い意味でも悪い意味でも、次年度以降の参考になると思いますので記しておきます（ちなみに、ブロゼミのときに使った論文を加筆修正したものです）。

わが国非正規雇用の現状と課題

はじめに

第1章 非正規雇用の特徴

1. 雇用形態別労働者数の推移
2. 非正規の賃金
3. 非正規の雇用形態別の特徴
4. 女性の非正規雇用について

第2章 非正規雇用の労働・生活をめぐる法制度と実

態

1. 非正規雇用と労働基準法
2. 非正規をめぐる社会保障制度
3. 非正規雇用と育児・介護休業
4. パートタイム労働法について

第3章 非正規雇用拡大の背景と批判的検討—労働市場の規制緩和を中心に

1. 規制緩和の経緯
2. 労働時間の規制緩和
3. 規制緩和推進派の主張
4. 規制緩和の現状と問題点

第4章 非正規をめぐる政策課題—海外の経験をふまえて

1. 各国の政策
2. 日本との違い
3. まとめ

あらためていま、こうして眺めてみると、順序がおかしかったり、足りない部分が見受けられます。最後に、まとめの章を設けるべきだったかなあとかも。今後の課題です。



分科会の風景

坂ゼミならびに星野ゼミの論文タイトル及び構成も記させていただきます（こちらは、章のみ）。

【坂ゼミ】

派遣労働者の諸問題

序章

第一章 非正規労働者の増加とその背景

第二章 賃金について

第三章 福利厚生について

第四章 派遣労働の問題点

【星野ゼミ】

日本の戦後最長の景気拡大と雇用・消費の動向

はじめに

第一章 景気回復局面の比較

第二章 若年雇用の現状

第三章 団塊世代の就業動向

第四章 雇用・賃金・消費の関わり



議長団 T と R

発表、開始！



各ゼミ及び私（助言講師）の軽い自己紹介の後、さっそく発表が開始されました。まずは、各ゼミで作成した論文の概要についての報告です。といっても、それぞれのゼミの論文にはお互いにすでに目を通しておりますし、しかも、他ゼミ論文の分からないところなどはこれまたお互いに質問書・回答書をかわすという作業も実施しておりますので、はじめて聞く内容というわけではありません。自分達の論文の特徴や強調し

たい箇所の報告、そして、他ゼミの論文内容の確認程度といったところでしょうか。

ちなみに、発表の口火を切ったわがゼミの Y。最近、別の発表会でも、堂々たる発表を披露したわりには、この程度の規模の分科会でも緊張していたもようで、「マジで、ひざ震えてましたから」(本人談)。日常的にプレゼンの特訓をする必要がありそうですね、これは。

質問あるひと、手上げて！

各ゼミのひととおりの発表を終えた後は、簡単な質問を受け付け、議論に移行。といっても、お互いに類似のテーマで論文を書いているため、イッタイ何を議論すればよいのか、議長団もしばし思案(これが、真っ向から対立するような論文同士であれば、楽なのですが)。というわけで、議長団が考えた論点等は、次の三つ。

- そもそも、論文執筆の問題意識・動機
- 非正規雇用をめぐる問題点の整理
- 非正規雇用の増大の背景

時間を少しとって、各ゼミで上の論点について整理してもらうことにしました。以下の写真は、その作業をしているときのものです(今回も、ワタクシはカメラマンの役も兼業)。



論点？おいおい、どうするよ



時間ないぞ、はやくはやく

非正規イコール モンダイある雇用・働き方なのか！

ところで、上で、「非正規雇用をめぐる問題点の整理」と記しました。しかしながら、あらためて言うまでもありませんが、非正規イコール悪というわけではありません。労働者側(労働力供給側)と使用者側(需要側)、双方のニーズがあるはずです。その意味では、今回の分科会(論文)では、そういう丁寧な議論・分析がなされていますか？ 助言講師としてそんな指摘もしてみながら、学生の議論を促してみました。

その問いに答えたのは、海外の経験・非正規の実態について調べてきた川村ゼミの女性二人組、略称、海外研究班(と勝手に命名)。なるほど、海外の実態に目を向ければ、非正規イコール悪ではないことが分かります。非正規イコール悪ではなく、非正規をとりまく環境・諸条件がわが国ではあまりに劣悪であるがゆえに、非正規は社会的自立が困難にさせられているのだ、ということが。海外研究班は、オランダ(オランダモデルが有名ですね)、スウェーデン、デンマークの参加国について調べていました(長坂寿久『オランダモデル—制度疲労なき成熟社会』は必読書)。ちなみに、海外研究の成果が今回の分科会でこんなにとりあげられるとは思ってもいなかったようで、「びっくり、ドキドキしました〜」(M&S 談)。

ところで、労働時間はどうよ？

議論が展開する中で、坂ゼミからの質問を機に、話はわが国の労働時間をめぐる問題に移っていきました。

ここでも時間をとって、各ゼミで次のことを整理してもらいました。

- わが国の労働時間の実態と背景
- 労働時間をめぐる問題を解決するための政策課題



はいはい、さっさと整理してくださいね（鬼議長）



んなこと言ったてよお

各ゼミとも、今回の論文では、労働時間については十分に扱っていなかったものの、もてる知識を総動員して、議論を展開していきます。実態としては、長時間労働、不払い労働の問題、背景（法制度面での問題）としてのさぶろく協定の存在やら、割増賃金の問題やら。とくに川村ゼミでは、ハローワーク前で行った求職者調査の結果がありますから、実態の報告に力が入ります（せっくなのだから、もう少し詳しく報告してもよかったのでは？）。ちなみに割増賃金の問題は、授業でならったことのウケウリだったようです。ややうろ覚え気味だったとはいえ、こんなところで活用するとは、やりますのお（この議論については、久本憲夫『正社員ルネサンス』をみよ！）。

助言講師の立場としても、わが国労働時間をめぐる問題について整理し、学生の発言にあった、ワークシェアリングについて少し講釈を述べさせていただきました。オブザーバーの先生からは、ILO条約との関連でわが国の問題についての報告や、ワークシェアリングに関する論点整理がありました（有難うございました！！）。

勉強のさらなる発展を！

議論もいよいよ終盤に。講評もかねて、助言講師として、幾つか（偉そうに）述べさせていただきました。そのひとつが、福祉国家論やわが国企業中心社会論など国家システムに関する議論の必要性、あるいは、労使関係の視点の必要性です。どういふことかと申しますと、ある問題に対して「かくかくしかじかという政策を導入すればいいんじゃないですか」という発言が往々にして学生からは聞かれますが、ではなぜその政策は実現されないのでしょうか？最近の例で言えば、最低賃金の抜本的な改善や、日雇い派遣の規制はなぜ実現されないのか、ということであります。



議論もいよいよ後半戦

もちろん、例えば川村ゼミでは、冒頭にあげたように、「非正規雇用拡大の背景と批判的検討—労働市場の規制緩和を中心に」と称して、非正規拡大の背景にあった規制緩和をめぐる議論について整理がされました。しかしながら、まだまだその勉強は十分ではありません。分科会でも頻繁に取り上げられていた、海外の経験・非正規の実態を論じる上でも、労使関係

の視点は外せません。例えば、なぜオランダではオランダモデルなりけるものが実現できたのか、ヨーロッパにおける同一（価値）価値労働同一賃金原則や日本よりも2,3ヶ月は短いと言われる（男性フルタイム）短い労働時間はどうやって実現されたのか、云々。さらなる勉強を深めてもらいたいものです。

たくさんの課題を残して・・・

最後のお題は、非正規の現状の改善を図る上で何が必要なのか、どう実現したらよいのか、などについて各ゼミから報告をしてもらいましたが、ここでは省略します。勉強をまだまだしなければならないということがどのゼミにおいても痛感されたようであったこと、それで教員としては十分。実際、ひとりひとりからの最後の発言・感想でも、今回のインゼミの参加がよい機会になったことが報告されましたし、、と、まとめておきながら、研究の課題についてもう少し語らせてもらいたいという熱い思いもあるが、、ええい、お疲れさん！！



お疲れさん！夕日に向かって、ぽーず



【番外編】



この卵、持ち上げるぜ、うりゃ



終わった終わった～



水上船に乗りました



サインはグイ



かんぱーい♪

最後に、二年間、ゼミをまとめ、たくさんの仕事を引き受けてくれたゼミ長のT、本当にどうも有難う。